

「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣賞を受賞

12月4日、弊社が長年活動してきたソニーサイエンスプログラム【インクルージョン・ワークショップ】が、障がい者の生涯を通じた多様な学習を支える模範的な活動として認められ、平成30年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣賞を受賞した。



■文部科学省の障がい者の生涯学習の推進について

文部科学省では、障がいのある方々が、学校卒業後も生涯を通じて教育や文化、スポーツなどの様々な機会に親しむことができるよう、教育施策とスポーツ施策、福祉施策、労働施策等を連動させながら支援していくことが重要としており、平成29年度より、障がい者の生涯を通じた多様な学習を支える活動を行う個人又は団体について、活動内容が他の模範と認められるものに対し、その功績をたたえ文部科学大臣表彰を行っている。平成30年度は全国から個人、社会福祉団体、NPO法人、企業などから67件（個人14件、団体53件）の受賞となっている。

http://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/1398880.htm

■授賞式の様子

表彰式は東京・霞が関の文部科学省にて行われ、STY 代表取締役盛田社長、ダイバーズビジネス部 瀬口部長、広報・CSR室 佐藤室長が出席。不在の柴山文部科学大臣に代わり、浮島副大臣がご出席、表彰状を授与された。



表彰状授与



記念撮影の様子。

前列左が浮島副大臣、3段目右から2人目が盛田さん

受賞コメント

STY 代表取締役 盛田社長のコメント

ソニーの科学教育に関する活動は、ソニーファウンダーの井深さんの思いから始められましたが、ソニー・太陽の障がい者雇用も井深さんの思いから始まりました。その二つの思いがインクルージョン・ワークショップという形で活動することになったのは必然だったのかもしれませんが。ワークショップを体験した子供たちが、科学の楽しさと多様性の理解を深め、次の世代のインクルージョンされた社会にて輝いて欲しいという思いからこれまで活動して参りました。そして今回、この活動が認められ、このような有難い賞を受けることに大変嬉しく思っております。ここまで活動してこられたのも、本社広報・CSR部をはじめ、関係



された方々からの多大なる支援・協力があつたからに他なりません。これまで本当にありがとうございました。これからも活動続け、インクルージョンされた社会を旨すとともにソニーのブランディングに貢献して参ります。引き続きご協力のほどどうぞよろしくお願い致します。

■当日の様子

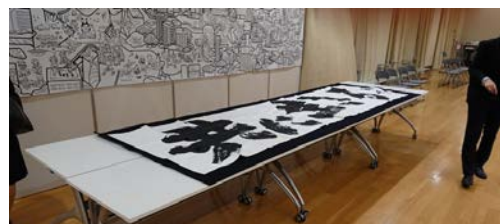
展示ブースでは「インクルージョン・ワークショップ」の活動を紹介し、実際にワークショップの作品を手に取り体感していただいた。ペットボトルで作られたヘッドホンの音楽を聞いた方はそのクリアな音に驚きを見せ、また、ICレコーダーキット「伝言ちゃん」を使って自分の声を録音し楽しむ方もいた。



ソニー・太陽の展示ブース



その他の展示の様子



「共に生きる」と書かれた巨大な書道画



受賞式典のあとは、障がいの有無に関わらず地域活動を推進している団体からの活動事例を紹介。障がいがあるがために学習の機会を得られなかった方への生涯学習活動紹介や、華麗なる車いすダンスの演技を披露するなど会場を沸かせた。

障がいのある方も参加した伝統芸能「石見神楽」上演の様子。ヤマタノオロチの舞踊に圧倒！

■活動内容【インクルージョン・ワークショップ】とは

ソニー・太陽ではCSR活動の一環として、障がいのある人もない人も参加でき、講師やスタッフも障がいのある社員が加わる「インクルージョン・ワークショップ」を2009年より開催している。障がいがある理由でもものづくりを難しく感じたり、一般の科学教室に参加することをためらう子どもたちが、このワークショップを通して新たな発見や気づきを得ながら、科学の楽しさと多様性の理解を深める機会にもなっている。

これまで「ペットボトルと牛乳パックでつくるヘッドホンワークショップ」や「発電・蓄電ワークショップ」などを中心に様々なワークショップを国内外で開催してきたが、一昨年からはMESHを使ったワークショップも開催している。



[【関連サイト】ソニー・サイエンスプログラム](#)